

あおもり資料ネットワーク準備会の活動

片岡太郎（弘前大学）、小田桐睦弥（弘前市立博物館）、中田書矢（鱒ヶ沢町教育委員会）、伊藤由美子（青森県教育庁文化財保護課）、瀧本壽史（弘前大学教育推進機構）、川内淳史・蝦名裕一（東北大学災害科学国際研究所）、斎藤善之（NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク）

令和6年能登半島地震により亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、被災された皆さま、ご家族、および関係者の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また、被災者の救済と被災地の復興支援にご尽力されているすべての方々に深く敬意を表します。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

準備会結成の経緯

令和4（2022）年8月、青森県鱒ヶ沢町では大雨により中村川が氾濫し、約445棟の建物に床上および床下浸水の被害が発生した。被災地域の舞戸地区に位置する正八幡宮（旧郷社）では、神社に関連する地域の歴史資料が浸水した。これらの歴史資料は水没後、乾燥して保管されていたが、資料同士が固着したり、表面に土砂やカビが覆ったりしており、今後のさらなる劣化が懸念された。

令和4（2022）年8月中旬～下旬 情報収集 & レスキュー体制の在り方を模索

東北大学災害科学国際研究所
宮城県資料ネット
独立行政法人国立文化財機構
文化財防災センター

支援

弘前大学人文社会科学部
文化財科学研究室・片岡太郎
（専門：保存科学）
弘前市立博物館
主査兼学芸員・小田桐睦弥
（専門：日本史）

協力

支援

鱒ヶ沢町教育委員会
深浦町教育委員会
青森県教育庁文化財保護課
文化財グループ

鱒ヶ沢町と深浦町の大規模災害に際し、県内外の文化財防災関連の担当者から、普段からの公的・私的な繋がりを通じてご心配の連絡を多くいただいた。青森県における文化的な資料の被災状況についての情報収集と今後のレスキュー体制の在り方を本格的に模索開始した。

令和4（2022）年9月3日 今後の対応についてオンライン会議

参加メンバー：片岡太郎（弘前大学）、小田桐睦弥（弘前市立博物館）、伊藤由美子（青森県教育庁文化財保護課）、瀧本壽史（弘前大学教育推進機構）、川内淳史・蝦名裕一（東北大学災害科学国際研究所）、斎藤善之（NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク）

あおもり資料ネットワーク準備会（仮称）の必要性を確認

鱒ヶ沢町正八幡宮蔵史資料クリーニング作業に至る経緯と経過

令和4（2022）年10月17日、小田桐睦弥（弘前市立博物館）、伊藤由美子（青森県教育庁文化財保護課）、片岡太郎（弘前大学）が、川内淳史・蝦名裕一（東北大学災害科学国際研究所）の協力を得て、中田書矢（鱒ヶ沢町教育委員会）の案内のもと現地の被災状況を視察した。その後、瀧本壽史（弘前大学教育推進機構）や斎藤善之（NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク）からの助言を受け、複数回のオンライン会議を重ねながら、青森県における資料ネットの在り方を模索し続けている。

令和5年（2023）4月1日から、資料の保全を目的として弘前大学人文社会科学部北日本考古学センターと鱒ヶ沢町教育委員会が共同研究を開始し、令和6（2024）3月31日まで約400点のクリーニング作業と整理作業を実施している。整理作業では、あおもり資料ネットワーク準備会から小田桐睦弥氏（弘前市立博物館）の協力を得て進めている。



資料の状態



ドライクリーニング



ウェットクリーニング

鱒ヶ沢町「資料レスキューと災害史」展 × フォーラムの開催

広報あじがさわ12月号 まちの歴史図鑑

文化財レスキューの活動紹介

「資料レスキューと災害史」展 × フォーラム

開催日時 12月10日(日) 13:30～16:20

会場 舞戸公民館 大ホール

参加無料

令和5年

フォーラム 12月10日(日) 13:30～16:20

会場 舞戸公民館 大ホール

参加無料

フォーラムの開催内容

令和5（2023）年12月10日に、鱒ヶ沢町の災害における被災資料に関し、資料保全の意義やレスキュー作業の詳細について紹介するとともに、地域における災害の歴史についてひも解くフォーラムを鱒ヶ沢町舞戸公民館で開催した。県内の文化財保護の関係者、大学生、町民などが参加した。本フォーラムと被災資料のレスキューについては、マスコミでも取り上げられ、NHK 青森、東奥日報、陸奥新報において報道された。

あおもり資料ネットワーク準備会結成の報告



フォーラム開催風景



フォーラムの展示風景



青森 NEWS WEB
報道はこちらから視聴できます

広報あじがさわ 2023.12月号 (12)

準備会の現状と今後の展望

現在、おおまかな活動方針を検討しつつ、約3ヶ月に1回の頻度でオンラインでの連絡会を開催している。連絡会では、弘前大学の片岡と弘前市立博物館の小田桐が中心となり、青森県内全域の連絡体制の在り方や必要性について検討しながら、ネットワーク構築を徐々に進めている。同時に、情報収集を行いながら、県外との連絡体制の在り方を模索している。また、通常時と災害時の活動に関するガイドライン（一定の共通認識）についても検討中である。